



創立1880年

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18

日本キリスト教会館6階

Tel 03-6302-1960

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

発行所 公益財団法人 東京YMCA

東京YMCA

発行人 菅谷 淳

東京YMCA 10

2022

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

コロナ禍の中でシーズンプログラム 3年ぶり宿泊キャンプ実施



今夏は6つの宿泊キャンプの他、デイキャンプ、水泳、語学スクールなど30以上のプログラムを実施した

宿泊キャンプ再開

今夏も必要な感染対策を行った上で、水泳、語学スクール、デイキャンプなどのシーズンプログラムを実施しました。感慨深かったのは、やはり3年ぶりとなった宿泊キャンプの実施です。感染者数が減少しない中で宿泊を伴うサマーキャンプをどうするか、直前まで悩みましたが、最終的には強い思いと覚悟を持って実施を決めました。やると決めた理由はいくつかあります。第一に、YMCAのプログラムに限らず、子どもが成長する場がコロナ前と比べて圧倒的に減っているという危機感があったこと。私も父親ですが、授業がオンラインに切り替わり、修学旅行をはじめ学校行事が次々と中止になる中で、あらゆる体験の機会が子どもから奪われている非常事態を肌で



山中キャンプでビッグカヌーに挑戦

体験と継承守る

もう一つ決定を大きく

感じていました。「どの家庭でも似たり寄ったりなのか。これはマズイことになった」と。人生の若い時期に、人との交わりが持つ意味は極めて大きく、ここで人と直に関わる機会を断たれることで失うものは計り知れません。YMCA職員の使命感のような気持ちが宿泊キャンプの再開を後押ししました。

左右したのは、学生ボランティア(通称・リーダー)の養成という課題です。YMCAのプログラムは、子どもと年齢の近い学生が、ボランティアとして関わり活動を共にすることを特徴としています。彼らはもちろん、入念な準備を重ねて本番を迎えますが、座学や実技のトレーニングをどれだけ積んだところで、実際の体験を通じて継承される知恵や力に勝るものはありません。3年ぶりにキャンプを実施するということとは、単純に考えて、キャンプ経験のあるリーダーは大学4年生のみということ。再開ももう1年先送れば、次回は全員がキャンプ未経験者となり、キャンプの文化が途絶えてしまう危険がありました。YMCAの野外事業の質を維持していくためにも、これ以上、中止をくり返すわけにはいかないと考えたのです。

宿泊キャンプの再開は、多くの方が好意的に受け止めてくださいます。ほとんどのキャン



総主事カフエ

東京YMCA総主事 菅谷 淳

プが申込初日に定員に達し、キャンセル待ちも受けれないほど多数の応募があったプログラムもありました。「需要があるのに、なぜ増やさないのか」という声も聞かれましたが、感染対策も含まれたプログラムの安全と質を保って実施するための最適な数であったと認識しています。

「やって本当に良かった」。そうしみじみと感じたのは、キャンプを終えて帰ってきた子どもと保護者が対面する「解散式」でのこと。満面の笑みで少し得意げな子どもたちを、保護者の方々はまぶしそうに見つめなが

が申込初日に定員に達し、キャンセル待ちも受けれないほど多数の応募があったプログラムもありました。「需要があるのに、なぜ増やさないのか」という声も聞かれましたが、感染対策も含まれたプログラムの安全と質を保って実施するための最適な数であったと認識しています。

ら迎えています。いつもどもや若者が本来特権的通りのキャンプ後の光景がそこにはありません。「ワクワクした」「楽しい」「ためになった」など、感動したり、価値観を揺さぶられたりするひと夏の体験は、子供松本竹弘



心静かに火を囲む体験もキャンプの醍醐味

冬・春プログラムのお知らせ

たくさん笑顔に出会えるように、万全の体制でお待ちしています。

受付開始：11月4日(金) 12:30~

*プログラム一覧はこちら



赤△三角

「遊び」が子どもの成長に与える影響は偉大です。「走る・跳ぶ・投げる」など、遊びを通じて自然と身に付く身体の動きは、運動の基本といえます。他者と関わり、互いの気持ちや考えを伝え合う力も、遊びの中でのさまざまなやりとりの中で養われていきます。まさに「好きこそものの上手なれ」といふ気持ちをエンジョムとすることで、驚くほどの集中力で新しいことをどんどん吸収し、変化していく子どもたちの様子を私はこれまで目の当たりにしてきました▼できなかったことが、できるようになること。YMCAのプログラムは、この喜びを体験する場でもあります。ここで欠かせないのが、「できる」「やりたい」気持ちを強力に後押ししてくれる、他者の存在です。泳ぐとき、清掃するとき、ボートにのるとき、議論するとき、アイデアを形にするとき、失敗も成功も、分かち合い励まし合える誰かが側にいることがどれだけ心強いことなのか、子どもたちは、体験を通じて身をもって学んでいきます▼数々の出会いと成長の舞台となった山中湖センターは、来年開設100周年を迎えます。(会員部 賛助会 募金FD室 統括 堀 雄二)

